

品番 RT919H



セット内容	
本体	1 個
キャップアダプター	6 個

汎用アダプター



キャップアダプター

1. エンジン及びラジエーターが熱い時は、ラジエーターキャップを絶対に開けないでください。

各車両メーカーの車輛の修理書に従い冷却水をドレンコック等より完全に抜いてからご使用ください。



アダプターの選択

アダプターの取り付け

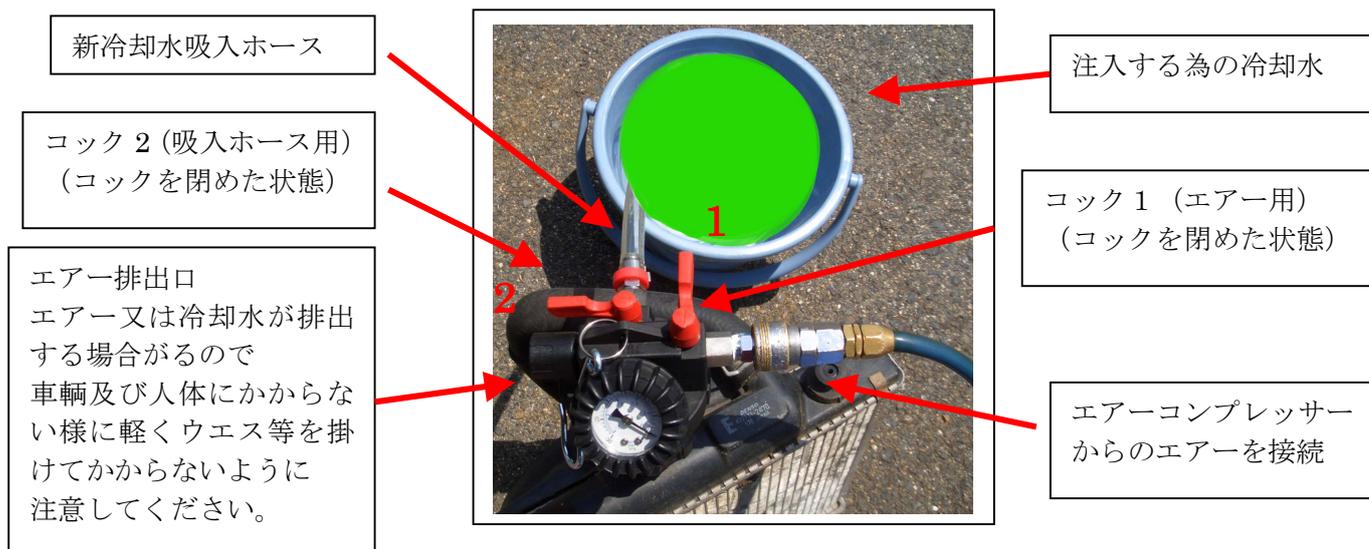
ラジエーターへの取り付け

エンジンが完全に冷えた状態で車輛のラジエーターキャップを外し車輛のラジエーターキャップ取付け部の内径に密着するキャップアダプターを選んで、本体に取り付けて下さい。
次に、本体をキャップ取付け部に確実に差し込んでください。金色部分を締め込み、本体を手で押さえてキャップアダプターを密着させてください。
バケツ等に注入するクーラント液を準備してください。

*** リザーバータンクへのホース部よりエアを吸い込む時がありますのでホースピンチャー等で押さえるか汎用アダプターをご使用ください。
車輛が古い、ラジエーターホースが劣化して硬化している、クラックがあるようなホースには使用しないでください。真空引きでホースが破損する場合があります。**

使用時は、エアーコンプレッサーのエアー圧を **0.6~0.8MPa (6~8K g f/cm²)** でご使用ください。
エアー圧が高いとラジエーターを破損する恐れがあります。

2. 冷却システム内の真空引き



コック 1 と 2 を全て閉じた状態で

コック 1 (エア-用) にエア-コンプレッサーからのエア-ホースを接続してください。
コック 2 (吸入ホース用) 冷却水注入用ホースの吸い上げ部分を注入するクーラント液に完全に浸してください。

注入用ホース内のエア-抜き

コック 2 及びコック 1 を開きクーラント液が本体まで吸い上がるまで

コック 2 を開いて、吸い上がるとコック 2 を閉じてください。

※ 吸い上げ過ぎに注意してください。吸い上げ過ぎるとエア-排出口から冷却水が排出されます。

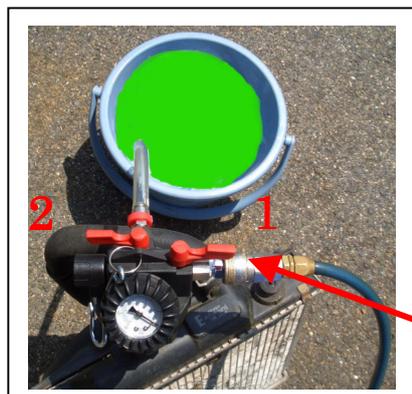
冷却システム内の真空引き作業

本体のコック 2 を閉じた状態で

コック 1 を開き、負圧計が止まるまで、エア-を流してください。

負圧計の針がぶれて真空状態にならない時は、本体接続部がしっかり密着しているか確認してください。車輻のラジエターのドレン及びホース、リザーバータンクへのホース等からエア-が混入していないか確認してください。冷却システムにクーラントの漏れがあ時でも真空になりません。

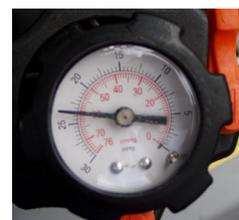
真空引きを長時間行うとラジエターを破損する恐れがありますので
長時間の真空引きを行う時は、お気をつけてください。



真空引き時

コック 1 : 開

コック 2 : 閉



冷却システム内の真空引き作業時の
コック 1 を開いた状態

3. クーラント液の注入

負圧計が止まったら、再度吸い上げ部分が注入するクーラント液に完全に浸かっていることを確認し、コック 2 を閉めてから、コック 3 を開けてください。



クーラント注入時

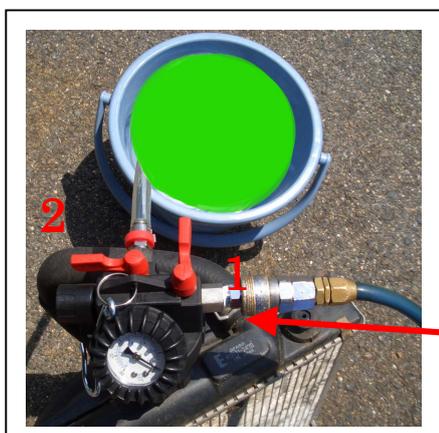
コック 1 : 閉

コック 2 : 開

※ クーラント注入中に吸い上げ部分がクーラント液に浸かっているとシステム内にエアが混入します。エアが混入した場合は、作業 2 からやり直して下さい。

クーラント注入作業時の
コック 1 をを閉じて
コック 2 開いた状態

4. メーターが正圧になったら、クーラントの注入は完了です。
コック 2 を閉めてから、本体をラジエターから取り外して下さい。



クーラント注入作業時の
コック 1 をを閉じて
コック 2 開いた状態

■ 真空引きが出来ない場合の対処法

エア排出口にゴミが詰まりエアを排出する穴が塞がれてしまい、真空引きが出来なくなることがあります。そういった場合は、下記手順で作業を行って下さい。

1. 本体にエアホースを接続している場合は外して下さい。
2. 本体コック 1 を開いて下さい。コック 2 は閉じて下さい。
3. エア排出口のアダプターを外して下さい。
4. 本体下部 (ラジエターに接続する部分) よりエアガン等でエアブローして下さい。ゴミを取り除いたらエア排出口のアダプターを取り付けてご使用下さい。